

# 經濟論叢

第十六卷 第二號

---

- 労働市場論なき賃金論……………岸本英太郎 1
- ブルック・ファーム……………穂積文雄 19
- イギリス革命における農業・  
土地問題分析の視角……………尾崎芳治 47
- 社会科学のひとつの立場……………出口勇蔵 61
- 《記事》  
昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演  
および研究報告の要旨…………… 74
- 

昭和三十五年八月

京都大学経済学会

## 経済学的範疇としての国家

島 恭 彦

現代資本主義論争の一つの焦点として、国家と経済との関連という問題が浮び上ってきた。しかしこれについての問題領域や次元の相違が意識されないうままに論議が進行して、かなり混乱をおこしている。ここで問題点の整理をやってみよう。

第一は唯物史観の領域での問題である。上部構造と下部構造との連関、生産力と生産関係との矛盾ということ、国家と経済との関連をいうとき、こういう唯物史観の公式、命題をもっと経済学的に具体化してみなければならぬ。

第二に経済循環と国家の再分配政策との関連、この場合従来<sup>の</sup>再生産表式のせまい見方を拡大して、貨幣資本、貸付資本の運動をもとり入れて、国家の再分配政策の作用を考える必要が

ある。なお国家の再分配によって恐慌はなくなつた、あるいは反対に再分配にも拘らず恐慌はおこるといふ考え方が対立しているが、前者は現実の国家の政策を是認する修正主義に通じ、後者は資本主義の唯一の矛盾を恐慌において、政策論の課題を放棄する結果になる。第三は労働者階級を主体とする政策論の観点からみた国家と経済との関連である。この場合には、再び第一の問題領域に立ちかえつて、上部構造と下部構造との関連、労働者階級がどの程度、上部構造や政策に影響を与えることができるかを検討する必要がある。

(京都大学教授)